

第49回日本カトリック映画賞「侍タイムスリッパ」 授賞式・上映会&対談



侍タイムスリッパ

2025年7月12日(土)
日本教育会館一ツ橋ホール

*14:00より上映(13:30開場)

13:30 開場

14:00 授賞式に引き続き、「侍タイムスリッパ」上映

16:40 安田淳一監督と晴佐久昌英神父による対談

前売券販売： 聖イグナチオ教会案内所 ☎03-3230-3509

サンパウロ書店(四ツ谷駅前) ☎03-3357-8642

高円寺教会 天使の森 ☎03-5307-6680

ドン・ボスコ社 ☎03-3351-7041

スペースセントポール ☎03-5981-9009

チケット：1,500円

障がい者：1,000円(介助者1名も同額)

*当日券のご用意はありません。



東京メトロ半蔵門線・都営新宿線・
都営三田線「神保町駅」A1出口

*チケットのお申し込みは、SIGNIS JAPAN 事務局 E-mail: info@signis-japan.org

*お問合せ担当：大沼(携帯：090-8700-6860)

主催：SIGNIS JAPAN(カトリックメディア協議会) / 後援：カトリック中央協議会広報

授賞作品

時は幕末、京の夜。会津藩士高坂新左衛門は暗闇に身を潜めていた。「長州藩士を討て」と家老じきじきの密命である。

名乗り合い両者が刃を交えた刹那、落雷が轟いた。やがて眼を覚ますと、そこは現代の時代劇撮影所。新左衛門は行く先々で騒ぎを起こしながら、守ろうとした江戸幕府がとうの昔に滅んだと知り愕然となる。一度は死を覚悟したものの心優しい人々に助けられ少しずつ元気を取り戻していく。やがて「我が身を立てられるのはこれのみ」と刀を握り締め、新左衛門は磨き上げた剣の腕だけを頼りに「斬られ役」として生きていくため撮影所の門を叩くのであった。

監督・脚本・撮影・照明・編集・他 安田淳一

1967年京都生まれ。大学卒業後、様々な仕事を経てビデオ撮影業を始める。幼稚園の発表会からブライダル撮影、企業用ビデオ、イベントの仕事では演出、セットデザイン、マルチカム収録・中継をこなす。業務用ビデオカメラ6台を始め、シネカメラ5台、照明機材、ドリー、クレーン、スイッチャー、インカム他を保有。2023年、父の逝去により実家の米作り農家を継ぐ。多すぎる田んぼ、慣れない稲作に時間を取られ映像制作業もままならず、安すぎる米価に赤字にあえぐひっ迫した状況。「映画がヒットしなければ米作りが続けられない」と涙目で崖っぷちの心境を語る。



▲公式ウェブサイト

2024年/日本/131分/カラー/G/1.85:1/ステレオ/DCP
配給：ギャガ 未来映画社/©2024 未来映画社

《授賞にあたって》

かっていい映画だ。その一言につきる。映画における最高の誉め言葉のひとつである「かってよさ」に溢れた、人を幸せにする映画だ。

真剣であることが、こんなにもかっていいなんて。そして、真剣に生きる人間をこんなにもかってよく撮れるなんて。主人公の立ち居振る舞いや嘘のない剣さばき、そのまっすぐな生き方がかっていいのはもちろんだが、それにも増して、こんな映画を作りたいと真剣に夢見て、資金不足をものともせず天命のように撮り続け、ついにはこれほどに笑って泣いて心を震わせられる、真剣勝負の映画を作り上げてしまう監督こそが、めっちゃめっちゃかっていい。

ああ、そうだった、映画って人を喜ばせるためにあるんだ。人を喜ばせることに真剣になり、そのために犠牲を払うことって、人が共に生きる原点なんだ。純粋にそう感じさせ

SIGNIS JAPAN 顧問司祭 晴佐久昌英（東京教区司祭）

てくれたことに、感謝したい。主人公が私利私欲を捨て、命がけで義を守ろうとする姿は武士道そのものであり、友のために命を捨てるキリストの道さえ思わせて、心が洗われる。

感動は、生きる原動力だ。今の日本のかってわるい政治家や、かってわるい経営者を見るまでもなく、いつの間にかかってわるい大人になってしまったぼくらに元気を取り戻してくれる、この真剣に面白い映画をなんとしても表彰したいと思った。なにしろ、あのラストシーンで息が止まったまま映画を観終え、ようやく深呼吸したとき、こんな自分ももうちょっとかってよく生きれるかもと、思わず背筋を伸ばしてしまったのだから。

まったくの蛇足だが、この作品のかってよさにキリスト教的価値観を見出した、われらが日本カトリック映画賞も相当かっていいと思う。

●日本カトリック映画賞とは……

SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）は放送・映画・視聴覚メディア・インターネット等のメディアを使って、キリストのよい知らせ（福音）を広めたいと望んで、活動しているカトリックの司祭、修道者、信徒、求道者の団体です。「日本カトリック映画賞」は、前々年の12月から前年の11月までに日本で公開された映像作品の中から、カトリックの世界観と価値観にもっとも適う作品に SIGNIS JAPAN から贈られる賞で、今年で49回目を数えます。

SIGNIS JAPAN <http://signis-japan.org>



SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42 女子パウロ会内
E-mail : info@signis-japan.org
担当：大沼（携帯：090-8700-6860）

過去の授賞作

- 第35回（2010年度） 月あかりの下で～ある定時制高校の記憶～
- 第36回（2011年度） エンディングノート
- 第37回（2012年度） 隣る人
- 第38回（2013年度） 先祖になる
- 第39回（2014年度） 谷川さん、詩をひとつ作ってください。
- 第40回（2015年度） あん
- 第41回（2016年度） この世界の片隅に
- 第42回（2017年度） ブランカとギター弾き
- 第43回（2018年度） ぼけますから、よろしくお願いします。
- 第44回（2019年度） こどもしょくどう
- 第45回（2020年度） コンプリシティ／優しい共犯
- 第46回（2021年度） 梅切らぬバカ
- 第47回（2022年度） 桜色の風が咲く
- 第48回（2023年度） ただいま、つなかん

*第34回（2009年度）以前の授賞作はこちら→

